

まもなく締切！
あなたもAOIのステージで演奏してみませんか？

参加者
募集！

静岡 室内楽フェスティバル2026

第16回 アマチュア・アンサンブルの日♪

11/23 月・祝 12:00開演(11:30開場) ※18:00終演予定

申込締切：4/17(金)必着
参加費：無料
募集定数：24組(無審査・多数抽選)

静岡の室内楽をより豊かにするために、
静岡音楽館AOIはアマチュアのアンサンブルを応援します。

詳しくは、募集要項をご覧ください。→



募集要項は、静岡音楽館AOIのホームページから
ダウンロードできるほか、
7階受付カウンターにてご用意しています。
今回よりWebからも申込みいただけます！
こちらよりアクセスし、必要事項を
入力してください。→



アンサンブル・テ・ラフェイム



常盤トリオ



Tomy Quartet



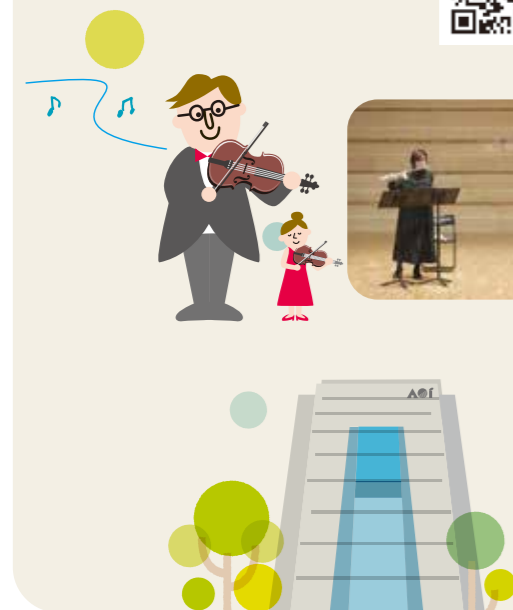
ミチコとヨーコ



富士リコーダーオーケストラ



2025年11月24日(月・休)
第15回「アマチュア・アンサンブルの日♪」
撮影：日置真光



静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、2026年度をもって退会をご希望の方は、2027年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員(2026年3月末現在)50音順

- (株)アオイテレック ●(株)ジェイアール東海ホテルズ
- (株)SBSプロモーション ホテルアソシア静岡
- かわした歯科クリニック ●(株)タミヤ
- (株)メディア・ミックス静岡

コンサートシリーズ2026-27

主催 静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

特別協賛 せいしん 静岡信用金庫

協賛 A アイワグループ

HIDEAWAY STUDIO architecture & art

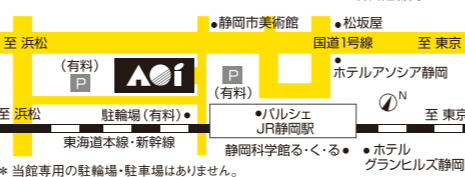
次のことを予めご了承の上、
チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

※価格は税込です。
※都合により内容を変更する場合があります。
※お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更はお受けできません。
※演奏中のご入場、および他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
※未就学児はご入場いただけません。(一部公演を除く)
※託児サービスはございません。

開場時の諸注意

※8階ホールへのエレベーターの運行は、開場時間以降となります。
※開場時は1階エレベーター前でお待ちの方を優先してご案内いたします。
※地下からご来場のお客様も、一旦1階にて列にお並びください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左



CONCERT HALL SHIZUOKA
静岡音楽館 AOI

月曜日休館(ただし祝日開館、翌平日休館)9:00~21:30開館

〒420-0851 静岡市葵区黒金町1番地の9

お問合せ

054-251-2200

静岡音楽館AOI 検索



AOI通信

静岡音楽館倶楽部情報誌
MAR. 2026 No.121

春号

インタビュー

村治佳織 新芸術監督に聞く
「今」と「これから」

静岡音楽館AOI 新たな章へー芸術監督交代を発表ー

新しいAOIのガラ・コンサート

祝宴

静岡音楽館AOI 2026-27年度
レジデンシャル・アーティストからのメッセージ
大瀧拓哉 ピアノ・リサイタル

コンスタンティノーブルの
楽器たち

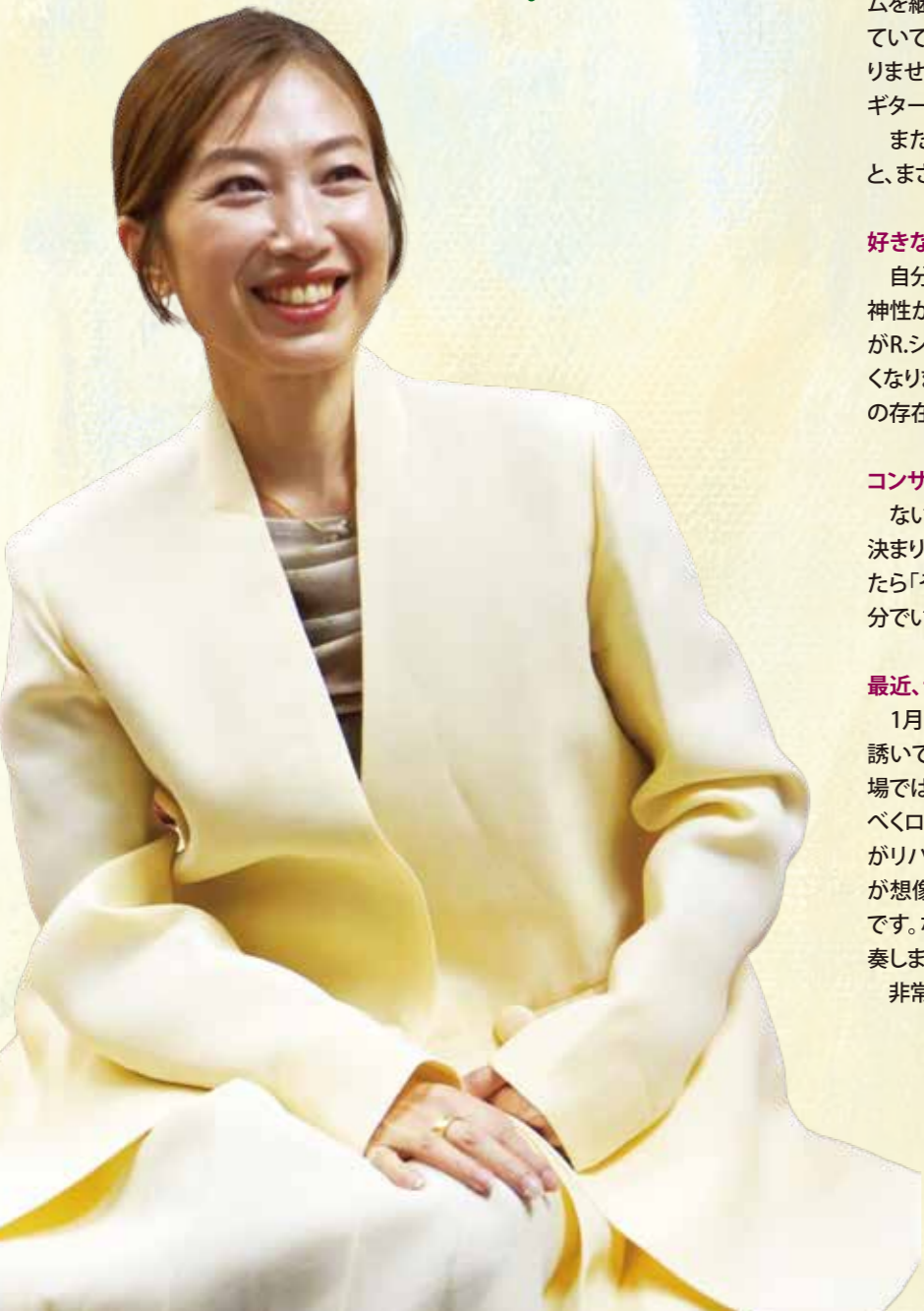
魅惑の中東音楽
コンスタンティノーブル & アブライエ・シソコ

AOI・レジデンス・クワルテット
公演レポート

AOIを支える人々
コンサートにおける調律師の役割

第16回 アマチュア・アンサンブルの日♪
出演団体募集

インタビュー 村治佳織 新芸術監督に聞く 「今」と「これから」



2026年4月、静岡音楽館AOIの新たな顔として、ギタリストの村治佳織さんが第3代芸術監督に就任いたします。

「演奏家と聴衆の架け橋になりたい」と語る村治さんに、音楽家としてのルーツから素顔、そしてAOIで実現したい試みまで、色々なお話を聞きました。

学生時代に静岡へギターレッスンの通われていたそうですが、心に残っている思い出は？

最初の数回は、師事していた福田進一さんが改札まで迎えて来てくださり一緒にご自宅まで行きましたが、そのうち一人で通うようになりました。当時はあまり旅行をしなかったため、新幹線に乗ること自体が特別でした。静岡駅に到着してからも、住宅街へ向かうバスに揺られながら「のどかなところだな」と感じていました。あとは富士山がきれいだなと思いました。

先生のお宅では1泊することが多く、ご家族と一緒に過ごさせていただきました。お料理がとても美味しかったことを覚えています。

日本全国、そして世界各地で演奏されてきましたが、特に印象に残っている地域やエピソードがあれば教えてください。

演奏をして印象に残っているのはコスタリカです。エコツアーリズムを継承している国なので、街よりも森林が多く、車で何時間走っていても森が続いていて、生き物たちも目がまん丸で陰しさがありませんでした。森林の中の湖の傍でサティを弾いたのですが、ギターとの馴染みがとても良かったです。

また世界を巡っていると、日本は多くの山に囲まれた国なのだ、まさに島国であることを改めて実感します。

好きな作曲家はどなたですか？

自分を高みに上げてくれるのはJ.S.バッハです。弾いていると精神性が高まってくるような気がします。ギターでは弾けないのですがR.シューマンも好きで、弦楽四重奏曲第1番は秋に必ず聴きたくなります。あとは直接お会いできたという意味でも、J.ロドリゴの存在は大きいです。

コンサート前のルーティーンはありますか？

ないです。以前はリラックスするために色々試していましたが、決まり事を作るよりは、どんな環境や国であってもその楽屋に入ったら「その日の私になる」ように、いろんな状況に合わせられる自分であることを心がけています。

最近、音楽的に刺激を受けた出来事はありますか？

1月にBLACKPINKの東京ドーム公演を訪れた際、ロゼさんの誘いで急遽2日後にステージに立つことになりました。大規模会場ではクリック(メトロノーム)に合わせて演奏するのですが、なるべくロゼさんの歌声をガイドにして弾こうと考えていました。ところがリハーサルしてみると、会場のエコーやディレイ(音の遅れ)が想像以上に強く、歌声に合わせてクリックからズレてしまうんです。なのでクリック音を大きくして、歌声と両方を聴きながら演奏しました。

非常にプロフェッショナルな現場で、素晴らしい経験になりました。

最近ではゲーム音楽をテーマにしたアルバムもリリースされています。クラシック音楽からキャリアをスタートされ、現在はポップスなど幅広いジャンルのアーティストと共演されていますが、演奏のアプローチに違いはありますか？

クラシックだと感情に合わせて表現の波を作っていますが、ゲーム音楽はもともと背景として流れる音楽でもあるので、飽きさせないながらも動きすぎない、割と淡々とした表現を意識して弾いていました。ポップスだと、縦の幅やリズムの流れを意識します。

これから挑戦してみたいレパートリーはありますか？

昨年秋にゲーム音楽という新たなジャンルを開拓したので、さらに発展させていきたいです。

最初にAOIの芸術監督を打診されたとき、どんなお気持ちでしたか？

演奏家として自身の活動を十分に楽しんでいるタイミングでこのようなお話をいただき、まずはとても驚きました。私は2023年にデビュー30周年を迎えましたが、AOIも2025年に開館30周年を迎えました。ほぼ同じ月日を歩んできた私の人生とこのホールが今再び交わり合い、これからどんなことができるのかと楽しみにしています。

もちろん演奏家としての自分も大切ですが、ステージに立つ音楽家と聴衆をつなぐ橋渡しができることは、今の私の人生をより豊かにしてくれる時間になるに違いないと思い、迷いなくお引き受けいたしました。

あとはスタッフの皆さまが素敵だと思いました。音楽業界は男性が多い中で、AOIは意外と女性が多い現場であることも多様性を感じることができて嬉しかったです。クラシックを熟知しているスタッフの方々なので、その点でも不安がありませんでした。

AOIの「ここが魅力」と感じる点はどこでしょうか？

ホールの空間に石や木が使われていて視覚的に楽しめます。会場の広さも丁度良いです。響きも良く、演奏者側にとっても余韻が心地よく、ステージが低いのでお客様との距離が近いのもいいですね。

芸術監督として、特に大切にしようと考えていることは何でしょうか？

お客様にはホールへ足をお運びいただき、音楽を聴いて元気になって帰っていただきたい。そのために、まずは携わる私たちやチームが元気に楽しんで制作できる環境を整えたいです。出演者・運営側の良い空気やパワーは、必ずお客様にも伝わるものだと思います。

AOIでこれからやってみたい新しい取組は何ですか？

5月30日(土)「新しいAOIのガラ・コンサート 祝宴」で、企画会議委員とレジデンシャル・アーティストの素晴らしい皆さまと共演します。この形でAOIの外でも演奏をして、AOIの魅力を発信していきたいです。

静岡の皆さまへメッセージをお願いします。

来ていただければ豊かな時間を過ごしていただけることは間違いないので、ぜひ「場の力」を感じていただければと思います。皆さまの身近な場所にこれほど素晴らしいホールがあることを誇りに思ってください、自慢の場所にしてほしいです。

静岡音楽館AOI、 新たな章へ —芸術監督交代を発表—

2026年1月21日、静岡音楽館AOIにて芸術監督交代記者会見を開催しました。4月1日より、第2代芸術監督・野平一郎氏から、第3代芸術監督・村治佳織氏へとバトンが引き継がれます。野平氏は30年にわたる歩みへの感謝と、演奏家と聴衆が出会う場としてのホールの未来を語りました。村治氏は理念「かわる×つなぐ」を掲げ、子どもから大人まで音楽に出会う機会の充実や若い才能の支援、静岡発の文化創造に取り組む決意を表明。新シーズンはガラ・コンサート(祝宴)を皮切りに、多彩な公演と新たな試みが始まります。新しい芸術監督のもと、さらに輝きを増す静岡音楽館AOIにどうぞご期待ください。



静岡音楽館倶楽部会員カードやシーズンパンフレットの新しいビジュアルデザインにも注目です!



芸術監督、企画会議委員、レジデンシャル・アーティストが一堂に会するバラエティ豊かなコンサート。
パレエとのコラボレーションで新しいAOIを祝う贅沢な饗宴。



新しいAOIのガラ・コンサート

祝宴

5/30 土 15:00開演 (14:30開場)
指定席 ¥6,000 (静岡音楽館倶楽部会員 ¥5,400)
[Pコード=309-302]

22歳以下
¥1,000

出演
村治佳織 (ギター)、幸田浩子 (ソプラノ)、上野耕平 (サクソフォン)、
田中博次郎 (歌舞伎囃子方)、
大瀧拓哉 (ピアノ、静岡音楽館AOIレジデンシャル・アーティスト) ほか
ゲスト 小尻健太 (ダンス)、藤間礼多 (日本舞踊)

曲目
村治佳織：バガモヨ ~タンザニアにて~
素囃子 (三番叟)
旭井翔一：エクローグ (田園詩)
F.リスト：ハンガリー狂詩曲第13番 イ短調 S244/13 (A.ヴォロドス 編)
R.ロジャース：ミュージカル
《サウンド・オブ・ミュージック》メドレー (藤満健 編)
J.シュトラウス2世：春の声 op.410
J.ロドリゴ：アランフェス協奏曲 第2楽章 ほか



静岡音楽館AOI 2026-27年度レジデンシャル・アーティスト

大瀧拓哉 ピアノ・リサイタル

9/26 土 15:00開演 (14:30開場)
指定席 ¥3,000 (静岡音楽館倶楽部会員 ¥2,700)
[Pコード=309-314]

22歳以下
¥1,000

出演
大瀧拓哉 (ピアノ)
曲目
J.S.バッハ：フランス組曲第5番 長調 BWV816
間宮芳生：エチュードIV~VI -ピアノのために- (静岡音楽館AOI委嘱作品)
F.ジェフスキ：〈不屈の民〉変奏曲



大瀧拓哉さんから、 みなさんへメッセージが届きました!

この度はレジデンシャル・アーティストに選んでいただき、大変光栄に思っております。静岡音楽館AOIは、長年にわたり伝統と革新の両方を発信してきた場だと感じています。そのような場所で演奏できることは、古典作品と同時に近現代の音楽も大切なレパートリーとしてきた私にとって、大きな喜びです。

5月30日のガラ・コンサートでは、企画会議委員の皆様と共演させていただき、ソロ演奏も予定しております。ガラ・コンサートらしく、華やかなステージになるのではないかと思います。

9月26日のソロ・リサイタルでは、バッハの作品に加え、初代芸術監督である間宮芳生先生の作品、そして私が特に力を入れて取り組んできたジェフスキの作品を演奏いたします。

《「不屈の民」変奏曲》は、現代を生きる私たちに強いメッセージを投げかける傑作です。響きの素晴らしいAOIのホールで、是非多くの方に聴いていただきたいです。

これからの2年間、静岡の皆様が良い音楽をお届けできるよう、一つ一つの公演を大切にまいります。皆様にお会いできることを楽しみにしております。

大瀧拓哉 (ピアニスト)



Setar
写真提供：浜松市楽器博物館

セタール

ペルシャ(イラン)由来の伝統的なリュート型弦楽器です。「セ」は「3」、「タール」は「弦」を意味しますが、19世紀頃にドローン(持続音)弦が1本追加され、現在は4弦の形態が定着しています。洋梨型の小さな木製共鳴胴と長いネック、そして羊の腸を用いた多数の可動式フレットが特徴。これにより、ペルシャ音楽特有の微分音を含む複雑な技法「ダストガー」を自在に奏できます。北インドの楽器 シタールの祖先の1つともされています。

演奏は主に右手の人差し指のみで弦をかき鳴らします。そこから生まれる瞑想的な響きは、古来「魂の声」と称され、精神性の高い楽器として深く愛されています。

コンスタンティノープルの 楽器たち

世界の多くの楽器は、その土地の風土や歴史と深く結びつき、進化を遂げてきました。今回は「魅惑の中東音楽 コンスタンティノープル&アブライエ・シソコ」公演で登場する、3つの個性豊かな楽器をご紹介します。



Viola da gamba 写真提供：浜松市楽器博物館

ヴィオラ・ダ・ガンバ

16~18世紀のヨーロッパで愛された「脚(ガンバ)で挟む」弦楽器です。18世紀後半までは弓奏弦楽器の代表格として君臨していました。「ヴィオラ」と聞くと、現在はヴァイオリンより少し大きな中音域の楽器を思い浮かべますが、当時はもっと広い意味で「弦楽器全般」を指す言葉でした。

見た目はチェロに似ていますが、ギターのようにフレットがあり、弦は通常6~7本。弓を逆手に持つ独特の奏法で演奏します。音色はチェロよりも繊細で、鼻にかかったような憂いのある響きと、豊かな余韻が特徴です。現在では古楽器として、その優雅な調べで人々を魅了し続けています。

Kora



写真提供：浜松市楽器博物館

コラ

西アフリカ(セネガル、マリ、ギニアなど)を代表するハープ型の弦楽器です。大きなひょうたんを半分にした胴に牛皮を張り、通常21本の弦を左右対称に配置した独特の構造を持っています。両手の親指と人差し指だけで弾くその音色は、まるで水が流れるようにキラキラと響いて、澄んだ美しい響きをしています。

「グリオ」と呼ばれる伝承音楽家たちが歴史の物語や村の起源神話などを語り継ぐ際に奏でてきたため、単なる楽器を超えた神聖な楽器として扱われてきました。

魅惑の中東音楽 コンスタンティノープル& アブライエ・シソコ

6/6 土

15:00開演 (14:30開場)
指定席 ¥5,000 (静岡音楽館倶楽部会員 ¥4,500)
[Pコード=309-308]

22歳以下
¥1,000

出演
コンスタンティノープル
キヤ・タバシアン (セタール、ヴォーカル)
ピエール=イヴ・マーテル (ヴィオラ・ダ・ガンバ)
パトリック・グラハム (打楽器)
アブライエ・シソコ (コラ、ヴォーカル)

曲目
キヤ・タバシアン：夢、アホウエ・ヴァシ
アブライエ・シソコ：デンキロ、ソウトウロ
キヤ・タバシアン/アブライエ・シソコ：マーママ、河口、イスファハンに向かって、
トラヴェルセ、シリフォ、出発、海底の魚

CONSTANTINOÛLE & ABLAYE (ISSOKO)





2026年1月17日(土)
AOI・レジデンス・クワルテット
公演レポート

30年前、静岡音楽館AOI初代館長と初代芸術監督を兼任していた間宮芳生氏が構想したのは、現代音楽も古典のレパートリーも演奏できるグローバルでフレキシブルな弦楽四重奏団の創設だったと思う。今年まで30年間演奏を続けてきた「AOI・レジデンス・クワルテット」は、まさに間宮が望んでいたカルテットに近づき、進化し続けたことをまず心から賞賛したい。

松原勝也、小林美恵の二人のヴァイオリンは、最初は第1ヴァイオリンと第2ヴァイオリンを交代しながら演奏していた。ヴィオラは白尾借子の急逝を受けて川本嘉子が、チェロは、安田謙一郎脱退の後、河野文昭がそれぞれ2代目を務めたが、とりわけ川本と河野が定着してからは回を重ねるごとに、四人それぞれの魂のぶつかり合いを感じさせ、作品に対する共感を明確に表出するようになってきた。

ここ数年は、ベートーヴェンの「弦楽四重奏曲」全曲演奏を一つの柱にして、フランス近代、北欧、ドイツの現代作品を交えた色とりどりのプログラムを披露したが、第2代芸術監督 野平一郎の「弦楽四重奏曲」第5番は、彼らのために2015年に同館委嘱作品として作曲され、同館と東京・石橋メモリアルホールにおいて世界初演を果たした。それは初めて同カルテットが東京で演奏するという貴重な演奏会となった。なお同曲は、2021年の野平一郎東京藝術大学退任記念演奏会(東京藝術大学奏楽堂)においても、同カルテットによって再演されている。

今回の最終演奏会を聴いて思うことは、30年前から変わらぬ彼らの真摯な演奏と、その熱量の高さである。凄まじい集中力を持って、プログラム最後のベートーヴェン「弦楽四重奏曲」第14番を極めて抒情的に、そして緊張感を保ちな

から立体的に構築した。この曲はベートーヴェンのバッハ信仰を表しているが、バッハの「平均律クラヴィーア曲集」全48曲のフーガの嬉遊部に一度しか用いられなかった「反復進行」の1つの型を主軸に用いた第1楽章をはじめ、そのほかの楽章の特徴的な形式も見事に描出。

最初のハイドン「弦楽四重奏曲」第81番では、晩年の作品の先進性をクローズアップしたアプローチで、ベートーヴェンの初期作品よりもよほど前衛的な音響であることを聴く者に教えてくれた。ベートーヴェン「弦楽四重奏曲」第11番《セリオソ》第1楽章は、そのハイドンの第3楽章のトゥッティのユニゾンに倣うように、鋭いターンで始まる。それを見逃さずに誇張した表現でオマージュを捧げるよう。いずれのベートーヴェンもその多様性を味わうことができる上、作品に対する畏敬を感じさせる名演であった。

アンコールは、いつものように松原勝也編曲によるバッハの「コラール」弦楽四重奏版。さらっとフェアウェルのあいさつのように奏した。

公演の最後には、草分裕美館長からのお祝いと労いの花束贈呈もあり、聴衆からも喝采を受けながら名残惜しく演奏会を閉じた。

野平多美(作曲家・音楽評論家)



撮影:日置真光



コンサートにおける調律師の役割

静岡音楽館AOIでは、出演者や我々運営側の他にも、多くの関係者の協力のもとコンサートが成り立っています。

例えば、ステージを最適な光で照らす照明スタッフやMCのマイクの調整や録音などを担当する音響スタッフ、そして開演前にお客様を笑顔で迎えるフロントなど。そんなみなさんの存在なくして、AOIの心地よい空間は完成しません。「AOIを支える人々」シリーズでは、そんな舞台裏のプロフェッショナルたちにスポットを当て、そのこだわりや想いをご紹介します。

第1回は、ピアニストの最高の相棒であるピアノ調律師。AOIのホールが持つ独特の豊かな響きを最大限に活かしつつ、演奏者が求める「色」を引き出すために、彼らは開演の数時間前から鍵盤一つ一つと対話を始めます。気温や湿度のわずかな変化、あるいは曲目によっても、その調整は驚くほど繊細に変わります。

次に皆さんが客席に座る際、ステージ中央に佇むピアノから流れる一音。その裏側にある、プロフェッショナルの静かな情熱を感じていただければ幸いです。

一言で言うと「コンサートを成功させる」でしょうか。

コンサートにおける調律師の役割と聞いて、ピアノを調律・調整をするのでは?とお思いの方もいらっしゃると思います。もちろんそれも大事な責務ではありますが、ピアノを演奏されるのはピアニストであり、共演者、そしてお客様に良い音楽を届けてもらう。更にはスタッフの方々に円滑に作業していただく。その結果、お客様が「良いコンサートだったね」と帰っていただける事、その一助になれば何よりと考えています。その中でいかに楽器を良い状態でピアニストへお渡し出来るか?が大事だと考えます。

皆さんはクラシックなどの演奏会にホールを訪れた際、開演前や休憩中にピアノの前に出て来て何やら作業をしている調律師をご覧になった事があるかもしれません。

自宅のピアノは年に一回位しか調律しないのに、コンサートの調律は基本毎回行う必要があるの?という疑問をお持ちかもしれません。

私はよく「ピアノ」を「車」に例えてご説明します。

ご自宅などのピアノは公道を走る一般車。一方、コンサートで使用するピアノをレースカーに例えます。

通常、一般車の点検整備は通常2~3年に一度の車検時、または年一回の定期点検時。安全が最優先な中、快適な走行が求められます。

一方、レースカーは安全性は勿論ですが、ドライバーが極限状態のいかに早くレース場を駆け抜けるか、最高のパフォーマンスが求められるよう、メカニックが絶えず調整しています。

コンサートでの調律もピアニストが最高のパフォーマンスを出せるよう、ピアニストの好み、当日の演目、楽器のコンディションや性能、ホール内の響き、温湿度の状態などを考慮し、直前まで細かな微調整を行っています。

ピアノは大きくて硬いイメージを持たれる事が多いですが、材料の半分以上は木材でその特性を活かして様々な種材を使用しています。その為、温湿度の影響を大変受け易く常に様々な変化を続けています。

静岡音楽館AOIをはじめ、多くのコンサートホールではピアノに限らず、楽器などが大きく変化しないように空調機で温湿度管理を徹底しています。ただそれでも、ドアの開閉などによる外気との入れ替えや家庭には無い大きくて強力な照明の熱など…影響は少なくありません。

このようなピアノの細かな変化にも予測・対応して作業を行い、ピアニストの好みに寄り添う事は容易ではありませんが、コンサートが成功し、演奏者やお客様の笑顔は私自身のやりがいにもなっています。

寺崎弘人(株式会社プロピアノ 調律師)

